



岡山済生会総合病院で1型糖尿病患者会の集い

120人 意見交換し悩み共有

1型糖尿病の患者会「1-Dream岡山」の集いが8月23日、岡山済生会総合病院(岡山市北区国体町)で開かれた。岡山県内外から約120人が参加し、生活上の悩みや普段から気を付けていることなどを話し合った。

1型糖尿病は主に免疫の異常によって膵臓でインスリンをつくる細胞が壊され、体内のインスリンが著しく不足する病気。生活習慣とは無関係であるにもかかわらず、「甘い物の食べ過ぎ」「自己責任」といった誤解がある。発症の要因が解明されておらず根治療法も確立していないが難病に指定されていないことを踏まえ、顧問を務める和田淳・岡山大学免疫内分分泌代謝内科学教授が「1型糖尿病が難病指定されるよう今後も要望を続けていく」とあいさつした。

医療社会福祉士の佐藤望美さんが高額療養費制度や障害厚生年金、こども・学生医療助成といった公的な支援制度について解説。10年以上前に発症し



岡山済生会総合病院で開かれた「1-Dream岡山」の集い

たという男性は、治療の進歩によりポンプで持続的にインスリンが補充される治療を受けられるようになって食事の自由度が高まったと講演した。

グループに分かれて意見交換もした。インスリンを補充するためのチューブをペットにかまれた「インスリンポンプを装着するとワンピースを着替えるなど」と悩みを話し合ったりした。

インスリンを補充する治療には、自分でおなかなどに皮下注射する方法と、体に付けた小型のポンプを通じ持続的に注入する方法がある。1型では治療効果の高いインスリンポンプ療法が普及しつつあるが、20歳になると国の医療費助成が打ち切られ、毎月3万円ほどの自己負担が必要となる。

岡山済生会総合病院は昨年4月、患者・家族を支援する日本IDDMネットワークと連携し、20歳を過ぎた同院の患者を対象に25歳まで医療費を助成する制度を開始。初年度は8人が利用した。(二羽俊次)